

2022年の振り返りと新社会人の小さな葛藤

ながれ

塚本 啓之 (つかもと ひろゆき/元インターン生・社会人)

●はじめに

このような執筆機会をいただき、社会と個人の1年をざっと振り返るとともに、今年の日本への期待と私（個人）の抱負を考えてみました。

なお、日本の気候変動対策に期待することについて、私はありきたりなことを抽象的にしか言えない（再エネ・蓄エネを拡充すべき、原発政策は国民の意見聞くべき等）ため、それらは他の専門家の方々にお任せし、ここでは2022年にあった出来事を踏まえ、論点を絞って書きたいと思います。

●世界・日本社会の振り返りと期待

ロシアによるウクライナ侵攻と

原発政策の在り方

2022年は良くない出来事が多くあった印象ですが、その中でも、ロシアのウクライナ侵攻は最も衝撃的なニュースでした。この軍事侵攻については、一刻も早く事態が収束することを祈るばかりですが、こんな時代になっても戦争という手段を選びうる人間の愚かさを痛感しています。一方で、私達はこの問題から、いくら条約等で法規制を課したとしても守られるべきことが守られない可能性があること、今回の場合は、原発が戦争の「道具」になりうることを知りました。

このことから、日本は非化石電源の1つと位置づけている原発に対する政策・考え方を再考する必要があるのではないかと思います。具体的には、戦争で攻撃対象になった場合のリスクも考慮した上で、非化石エネルギーである「原発」と「再エネ」という2つの選択肢を比較することが必要だと思いま

す。「日本が戦争に巻き込まれ、かつ、原発が攻撃対象にされるリスクを考慮するなど馬鹿らしい」と思われる方もいるかもしれませんが、実際に他国でこのような事態が発生している事実を勘案すると、最悪のシナリオも想定して対策を検討すべきだと思いました。放射性廃棄物の最終処分の見通しが依然として不透明な中、先月示された「GX実現に向けた基本方針」では、安全最優先で再稼働を進めるとともに、次世代型への建て替えも視野に原子力を活用することが示されましたが、このような出来事を踏まえ、再検討されることを期待します。

日本での自然災害と災害対応の在り方

日本では8月から9月にかけて発生した台風や前線の大雨・暴風によって多くの地域で被害が発生したことは記憶に新しいところです。線状降水帯の発生などにより、複数地点で24時間降水量が観測史上1位となったり、記録的な大雨になったりしました。1時間降水量50mm以上の年間発生回数が増加している傾向から、今後も豪雨災害の激甚化・頻発化が予測されますが、このような「観測史上～」や「記録的～」などと言われるような自然災害は毎年起こってくるように思われます。

このようなニューノーマルな自然災害に対応するには、気候変動適応の取組が重要になると考えます。激甚化・頻発化していく自然災害に対して、河川の堤防嵩上げなどのハード対策だけでなく、集団での避難訓練などのソフト対策の両方を並行して、気候変動影響を踏まえた都市計画・まちづくりが推進されることを期待します。また、日本は人口減少社会であるという側面も併せて考えると、都

市のコンパクト化を図る場合、(当該住民に対してどのように納得してもらおうのかという問題はありますが) 災害リスクが高い区域を居住エリアから除外するという選択も考えられます。いずれにせよ、期間は要するものの、各地域で気候変動適応計画が策定され、そして、実行に移されていくことが期待されます。

●個人の振り返りと抱負

個人的には、2022年はあるという間に過ぎていった印象ですが、振り返ってみると非常に多くの出来事がありました。3月までは大学院生として気候変動適応に関する研究に携わり、4月からは新社会人として環境問題に携わっています。また、6月には結婚して新しい家族をもち、新生活を迎えました。そんな多くの環境の変化を体験してきたことで、環境問題に対する捉え方について前向きにも後ろ向きにも?変化があったので、その内容と今後の抱負について述べたいと思います。

ゆとりある生活を持つこと

今年は第一に、精神的・時間的にゆとりがある生活を持ちたいと思っています。と言うのも、働き始めた当初は基本的な仕事のマナーや、配属先の業務内容もほとんど知らずに飛び込んだため、日々の業務に付いていくのに必死になっていました。そのため、自分の業務以外に視界が広がらない、即ち、業務時間以外で環境問題について考える機会がほとんどなくなっていました。

また、職場でのストレス等が原因で一時的に仕事に行けなくなったという友人の話も聞きました。私は、「日本は何不自由なく暮らせて十分に満たされている一方で、世界には貧困等により日々を生きるのに精一杯な人々が多数存在する。だから、このような不公平な世の中をどうにかしたい」と思っていました。しかし、例えば日本という比較的恵まれた環境下においても、その次元での悩みや欲望は

尽きないということを考えさせられました。そして大多数の人々にとって、環境問題は one of them であり、その他多くの悩みや欲望を持って生きているため、広い視野を持って思考し行動できるような余白(ゆとり)があることが(私に限らず)重要なのだと改めて感じました。

危機感や罪悪感/豊かさや楽しさのバランス

その一方で、環境問題に対する危機感や自身の行動に対する罪悪感を減らして、楽観的な考え方を身につけたいと思っています。私は自分が納得できない行動(例:外出先でペットボトルを買う)をする度に、少し落ち込んでしまうことに嫌気が差していました。それは、学生時代から環境問題の解決に貢献したい、できる限り早く何とかしたいとの強い思いから、まっすぐに行動してきたせいかもしれません。

そんな中、昨年犬を飼うことを考えてきたのですが、室内で飼育する場合、夏や冬の温度調節が必要で、エアコン使用による消費電力の増加が予想されるため、省エネ行動の観点から飼うかどうかを悩むこともありました。しかし、小さい頃から犬や猫と一緒に暮らす生活に憧れていたこともあり、妻とも相談し、飼うことを決断しました。客観的にみると、環境配慮行動のレベルが後退したように見えますが、一度しかない人生を後悔なく生きるため、環境問題に対する危機感等だけに縛られない生活をしていきたいと思ったからです。

個人の行動が及ぼす影響は決して小さくなく、環境問題の時間的・空間的スケールの大きさからは途方にふれてしまうこともあります。それでも一人ひとりできることはたくさんあります。そのことも忘れず、仕事でもプライベートでも、楽観的な気持ちとゆとりを持ちつつ、行動し続けていきたいと思っています。